

入門期こそ語源で単語を覚えるチャンス

——「いっしょに覚えよう！」「なるほど単語情報」の活用を

林 信孝



■入門期用英和に語源欄？

英和辞典というものは、知らない単語の意味を調べるために引くものとふつうは思われています。だから語源欄などというものが、入門期用英和に必要なのかと訝る向きも多いのでは？

しかし、入門期こそ、語源を利用しての語彙学習に意味があります。英語学習の早い時期に、接頭辞や接尾辞などの語形成や語彙構造の仕組みに触れることで豊かな学習につながります。それには、ちゃんと理由があるのです。

■記憶力の発達段階

人間の記憶力には機械的記憶と論理的記憶の2種類があって、後者は老年期まで衰えませんが、前者のピークは平均で12歳ということです。語学の学習には、文法のように論理的に理解できる部分もありますが、語彙のように言語の恣意性が優勢な部分もあります。これが若いうちに習得しないと外国語がなかなか身につかない原因です。

英語学習の入門期（かつては中学1年、現在は小学校の高学年）こそが正にその時期にあたるので、膨大な数の単語を次々に覚えて行かなくてはならなくとも乗り切れるのです。しかし、そういう時期だからといって、闇雲に覚えさせるのは記憶力への負担を増やすだけで、すぐに訪れる機械的記憶の衰えに対応できることになります。

そもそも英米人が大人になっても新しい単語を覚えられるのは、語彙の構造に論理的記憶を活用する方策が隠されているからに他なりません。それが語源です。同じ語根に接頭辞や接尾辞を付けたり換えたりすることで、関連語をまとめて記憶

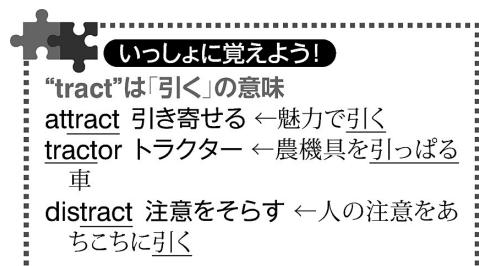
しているのです。これを入門期から開始することで、豊かな英語学習へと誘っていけるのです。

■語源欄は現代語情報

英語教師の方々には、語源というと、英語史の話で、古英語・中英語や比較言語学の知識がないと触れられないと感じている人も多いのでは？そんな事柄は英米人もよくわかつていません。単語が接頭辞+語根+接尾辞に分解できて、それぞれに共通の意味要素を持っているとしか感じていません。

■具体例から

『ベーシックジーニアス英和辞典第2版』のattractの項にある「いっしょに覚えよう」では、次のようにになっています。



attractの次の項 attractionには「(遊園地などの) アトラクション」も出ています。これらの語が「引く」という共通項で括られ、一緒に覚えることができるのです。

急がば回れの語源情報、ぜひ入門期に活用する習慣を付けさせたいものです。

(はやし のぶたか・フェリス女学院中学校・高等学校教諭)